

崇禪寺伝来墨跡

— 保存修理の技がつなぐ文化財 —

土岐市妻木町にある臨済宗妙心寺派の古刹崇禪寺は、妻木の領主土岐明智氏が虎溪山永保寺の住持だった果山禪師を招き、文和3年（1354）に創建したと伝わります。

寺には岐阜県重要文化財に指定された貴重な墨跡2幅、夢窓国師墨跡「果山」と「此山妙在墨跡」があります。これらは創建の頃よりおよそ700年間、修理を重ねながら、寺宝として大切に守り伝えられてきました。ところが近年、2幅とも傷みがひどくなっていたため、令和3～4年度にかけて保存修理が行われました。

修理は、書や日本画の修理を担う専門家「装幀師」によって行われ、掛軸を全て解体し、何層にも重なった裏打ち紙や過去の補修紙を一つ一つ慎重に除去し、紙の欠損部分に新たに補修紙を補填していく作業が行われ、修理後に再び表装し直されました。

12月10日（日）まで、修理が完了した墨跡の公開および「装幀師」の技術の一端を紹介する展示を開催しています。

修理前

修理前

修理後

修理後

夢想国師墨跡「果山」

南北朝時代（14世紀） 岐阜県重要文化財

此山妙在墨跡

康安2年（1362） 岐阜県重要文化財

美濃陶磁歴史館だより

展示や講座、発掘調査の成果、文化財関係事業のお知らせ



編部鏡の文様：傘と鷺

開館44年を迎えた当館では新たな博物館への建て替えを前に、令和5年度は年間を通じ、当館の資料収集の軌跡を振り返る展覧会をシリーズで開催しています。

第2弾となる本展のテーマは「現代の作り手たち」。土岐市政と深く関わり合いながら形成されてきた当館の美術工芸コレクションを概観します。

◆二宮コレクション
にのみややすのり
初代土岐市長 二宮安徳が収集した
陶磁・書画コレクション



《種子島花瓶》 小山富士夫 1973-75年

◆土岐市主催の公募展 現代陶彫展
やきもののまちとして、産業だけでなく
芸術も陶磁で盛り上げる



第1回ユーモア陶彫展優秀賞 《問自考》 柴田節郎 1997年

◆地域史を物語る寄贈作品
ウラン鉱床発見で全国的に注目を
浴びた土岐市

《手捻ウラン黒釉茶盤》
土岐市陶磁器試験場 1964年

◆イタリア ファエンツァ市との交流
1979年以来、姉妹都市として親交を
深め、来年度で45周年を迎える



《垂直の核》 カルロ・ザウリ 1976年

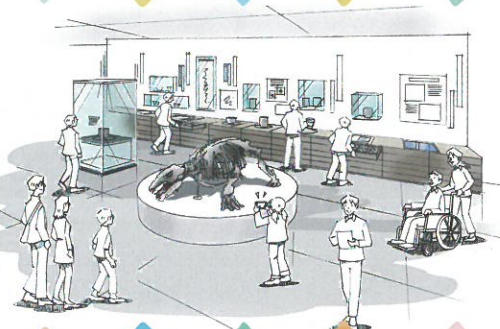
◆陶芸家が挑む茶陶
革新的な茶の湯の器「織部」を
生んだ歴史を背景に

第14回現代茶陶展優秀賞
《ゆらぎ》 田中佑子 2022年

現代の 作り手 たち

2023
9.9 Sat ▶ 12.10 Sun

さよなら歴史館 そして新博物館へ



土岐市美濃陶磁歴史館は、「美濃焼」と「土岐市の歴史・文化」をテーマとした新しい博物館へと生まれ変わります。令和9年度末の開館を目指し、昨年度に基本計画は完成、現在は基本設計を進めています。なお、現在地での建て替えとなるため、歴史館は令和5年度を区切りとして一時休館となります。休館までまだ5ヵ月ほどありますので、ぜひ今一度お越しいただければと思います。



新博物館の3つのテーマ

1 「美濃焼のランドマーク」 としての博物館

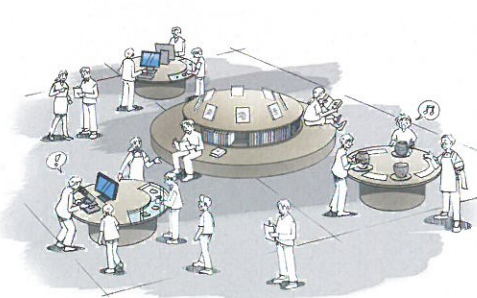
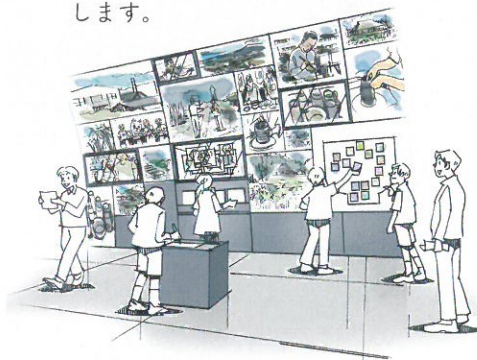
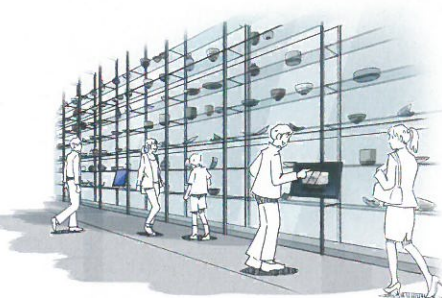
美濃焼について知りたい、学びたい人々にとっての道しるべとなる博物館をめざします。

2 「土岐市の歴史・文化」を知り ふるさとへの愛着を育む博物館

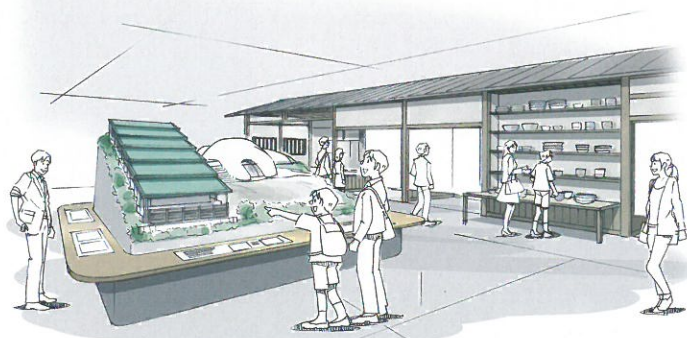
土岐市の歴史・文化を築いた人々のストーリーを紡ぎ、未来に継承します。

3 多様なつながりやまちの にぎわいを生む博物館

地域の多様な人や団体とつながって活動することで、地域課題の解決に寄与することをめざします。



期待してお待ちください！



新博物館の特設 HP を公開しています。学芸員レポートや各種講座、ワークショップ情報等も公開していきますので、ぜひチェックしてみてください。

新博物館 HP➡

<http://www.toki-bunka.or.jp/history/history-report>



今後のスケジュール (予定)

令和5年 (2023)	基本設計・解体工事設計	
令和6年 (2024)	実施設計	解体工事
令和7年 (2025)		
令和8年 (2026)	建設工事	躯体枯らし期間
令和9年 (2027)		
令和10年 (2028)	開館予定	

新博物館周知イベント

ブック&サイエンスフェス 2023 に出展！



9月10日(日)に土岐市役所や図書館を会場にして開催されたイベント「ブック&サイエンスフェス 2023」に新博物館計画を紹介するためのブースを出展し、美濃焼や土岐市の文化財の写真を加工する「プラ板キーホルダー作り」、美濃焼カルタやクイズなどの体験コーナーを設けました。当日は、今年から募集を開始したボランティアの方にも体験サポートをしていただき、親子連れを中心に約150名がキーホルダー作りを体験、カルタやクイズも盛況でした。今後も、楽しみながら、新博物館のことや土岐市の歴史・文化を知っていただけるワークショップを開催していく予定です。



最後の展覧会！

開館44年 収集の軌跡Ⅲ

《挑戦！重要文化財2,000点並べてみる！》

(仮題)

一時休館となる当館の最後の展覧会として、そして、新しい博物館を見据えた試行錯誤の展覧会として、土岐市所蔵の重要文化財「元屋敷陶器窯跡出土品」約2,000点の展示に挑戦します。この大量の陶片は、およそ400年前、茶の湯の流行を受けて当地で生産された「美濃桃山陶」を中心とした一群です。現在、国史跡となっている「元屋敷陶器窯跡」で出土し、平成25年に重要文化財に指定されて以来、毎年、特別公開の展覧会を開催してきました。ですが、あまりにも量が多く、未だに皆さんの目に触れたことのない陶片ばかりです。新しい博物館では、この重要文化財の一群を収蔵しながら展示し、その圧倒的なボリュームを来館者に体感してもらいたいと計画しています。どんなふうに並べようか、どんな仕掛けを用意しようか…本展は、その収蔵展示に向けた、試行錯誤の一つでもあります。すべて並びきるかはわかりませんが、空間が許す限り、できるだけ多くの陶片を公開展示します。皆さんがまだ見ぬたくさんのかから、お気に入りを見つけてみてください。

2024.1.7[日]～3.31[日]



《元屋敷陶器窯跡出土品》重要文化財含む